

コロナに負けるな みんなで産地を守ろう！

食べて応援 秋の味覚 徳島県特産 「すだち」

スダチ・酢橘(Citrus Sudachi)はミカン科カンキツ属の常緑低木ないし中低木で、徳島県原産の果物。名前の由来は、果実に含まれる果汁を食酢として使っていたことより、酢橘(すたちばな)から名付けられたようである。「巢立ち」「酢立」などと当て字されることもあるそうです。約40種類にのぼると言われるユズ・カボスと同じ香酸柑橘類。花期は、5～6月頃白い花を咲かせ、旬は8～10月にかけての露地ものが香り・味わいが最も良いものとなっている。果実は、1個25グラム前後の大きさでビタミンCやクエン酸などが豊富で果汁を搾るだけでなく、果皮は料理に使うことができます。品種は、徳島すだち1号・本田系・神山系・酒井系などがある。栽培の歴史は江戸時代に遡るが、1956年に神山町籠野地区で養蚕業や甘藷栽培が行き詰まり、農家有志で栽培を取り組み商業生産が始まったよう。栽培面積は約400ha、神山町、佐那河内村が主産地。収穫量は約4,150トン、全国シェアは97～98%徳島県産が占めている。

先日、小松島市・鶴田利七商店様のご案内で、徳島市農業協同組合南部営農センター果樹選果場 日開課長様にお話しを伺いました。同JAでは約1千トンのすだちを集荷しており約半数が加工品で青果出荷の内、露地ものが約200トン、冷蔵ものが約200トン、ハウスものが約100トンの割合のよう。今年は表年で収量は多かった模様。一昨年、昨年は寒波の影響で木が痛んでしまい少なかったと言う。但し、すだちは青いうちに収穫するため、収量が大きく変化することはないとお話です。すだち部会の農家戸数は南部営農センター管外を含めJA徳島市全体で約350名の内、南部営農センター管内が250名を有し中核をなしている。収穫作業についてお聞きしたところ、果実が小さく手数をかけて何度も作業を繰り返す。また、収穫時期が真夏の8月～9月にかけての暑い季節で3回程度行う。中々の重労働である。JAの果樹選果場は冷蔵ものの選別・出荷の真っ最中であった。今年の状況について、NHKで報道されご存じの方も多いと思いますが、コロナの影響なのか、市場で1日1トンが余ってしまう事態に。例年なら出荷後その日のうちに販売され、売れ残ることはないと言う。また、価格も通常だと9月は500円～700円の相場が今年は300円～350円程度の安値で低迷している。原因はコロナで飲食店の休業や時間短縮の影響。

(次ページへ続く)



どれが「すだち」か分かりますか？

正解は一番左
 真ん中は青ゆず、右はかぼすです



JA 徳島市果樹選果場



(前ページより続く)

また、さんまにすだちを合わせるが、さんまの不漁の影響や中国産マツタケの輸入減により、合わせるすだちの出荷も大きく影響を受けたのではないかと報道された。すだちの生産量は平成21年～平成30年の10年間で6千トンから4千トンに2千トン減少している。大手外食チェーンやコンビニですだちを使った商品を開発し販売されている。

少しでも国産食材を食し、農家の方々を応援していきたいと思います。是非、これから鍋の季節にピッタリのすだちポン酢をご購入してみたいはいかがでしょうか。

(大阪支店)



中国 肥料輸出法定検査を発動

動き次第で国内肥料価格の期中改定や供給不足も？

中国の国家発展改革委員会は去る7月30日に国内の主力肥料メーカーに対し国内市場の供給優先を指示、10月15日付で中華人民共和国海関総署HPより海関総署公告2021年第81号にて主要肥料29項目（その他肥料含め）について法定検査を行うと発表した。

輸出規制はWTOのルールに抵触する恐れがあるため法定検査という形を取っているようだ。中国は尿素やリン安などの肥料主要原料の消費国でもあり生産国でもあり輸出国でもある。日本は地の利から中国にかなり依存をしている。中国国内でも肥料の価格は記録的な値上がり基調が続いており、これは環境規制や洪水被害による国内生産量の減少、原油価格の上昇、海外需要の拡大に伴う要因が元となっている。よって政府は中国国内の主要原材料価格の高騰を抑制し国内の肥料価格抑えるための対策の一環として海外向けの輸出規制を発動した模様。当誌378号（2012年1月25日発刊号）でも過去に中国により発動された肥料輸出規制の状況を報告したが、当時は輸出関税を変更するという方法（関税率変動システム）で、ルールの網をかいくぐって包装容器を10kg以下に抑える等で輸出関税を免れる対策を講じた業者もいたほどであったが、今回は輸出そのものに規制をかけていくという対応となっている。こうした状況の中で、日本国内では年に2度ある肥料価格の改定時と重なり、肥料原料を輸入する商社やメーカーはこの情報収集に奔走しており、例年よりも価格提示が遅れている。また、この突然の中国による輸出規制の発表により、場合によっては原料調達に支障が出たり、春肥（11～5月）の期中価格改定の可能性もありうるとして販売先に注意喚起を始めている。

今回ばかりは初めての措置のため正直見通しが立たない。既に中国品の石灰窒素は価格高騰し在庫が切れかかっている状況で、ようりんについても日本国内で流通している商品の主力は中国品であるためにほぼどの商社も在庫が切れかかっているが、規制発動前に契約したものですらかなかなか輸出通関ができていないとの声も聞く。対策として輸入商社やメーカーは中国以外からの原料調達も検討しているが、近場の中国とは異なりどうしても調達コストがかかってくることで、国内の肥料需要がどうなるのか見通せない中で1度に大量の高騰した原料を輸入すると過剰在庫とならないか等懸念材料はたくさんある。

国内メーカーはどこも値上げ前の駆け込み需要で商品在庫は低い状態にあり、最大の販売期である春肥までの原料を十分に備蓄出来ているメーカーなどはどこもない。中国がくしゃみをしたら日本は大風邪を引くといった状況になるのか、今後どのような形で具体的に影響が出てくるのか引き続き注視していきたい。

先日、ふるさと納税の返礼品で山形産新米食べ比べセット（つや姫、雪若丸、ミルキークイーン）が届きました。全種類食べるのがとても楽しみです。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>